

中央アルプス 中御所谷遡行

日時 令和3年10月16日

天気 晴れ後曇り

メンバー Y.Y, T.K., R.K.

タイム しらび平6:00 日暮らしの滝上6:50 一つ目のチョックストーン滝上7:40 最初の高巻き

滝上8:30 上のチョックストーン滝上10:40 40m大滝前12:50 鏡の滝上14:10 千畳敷15:40

中央アルプスの銘溪、中御所谷を遡行した。ロープウェイの最終17時が頭にこびりついて離れず、プレッシャーの下での遡行であった。

菅の台駐車場5時にタクシー発で、しらび平バス停へ。誰もおらず、ゆっくりと準備してバス停の左手から遊歩道を辿る。入谷してすぐに2段の日暮らしの滝で、いずれもロープ確保で登る。水苔が滑るため、慎重に足場を確認しながらの登攀であった。これを越えるとすぐに最初のチョックストーン滝で、右壁を偵察するが登る気が起こらず少し戻った左岸ルンゼから巻きに入り、懸垂10mで沢に復帰した。

ここからしばらくは直登できる滝が続く。振り向くと雲海も見られ、アルプスの沢を実感する。1か所、右岸を小さく巻いた滝を除き、滝を直登して行きやがて二つ目のチョックストーン滝へ。ここは記録では左岸トラバースだが、滝近くから小さく巻いている記録も見られたため近づいて観察するが、左岸側壁は登る気が起こらなかった。下流側から左岸をトラバースできそうなので、少し戻ったザレた草付き斜面を20mほど登り、小灌木で支点を取りロープを使いトラバースに入る。踏み跡とまでは言えないが、見た目よりは足場は良く、カムで支点を取ることができ、岩溝内のテラスでハーケンを打って支点を作りピッチを切った。ここからの15mほどは、微妙なバランスが必要な所もあったがハーケンで支点が取れ、ハンガーボルトも1か所打たれていた。40m一杯で滝頭に到着、大岩でビレーする。

以後もゴルジュが続くが、しばらくは登れる滝が続く。やがて登れない滝が出現、右岸大高巻きに入る。ロープウェイ時間を意識するため、どうしても滝をとばしたくなり上流側での沢復帰を目指す。40m大滝が見えてくると、沢に復帰できそうなので下降するが足元の滝が気がかりで、もう1本上流側の尾根が下降しやすそうなので、少し登りなおしてそちらの尾根を下降する。ロープ不使用の高巻きで、40m大滝の前に降り立った。

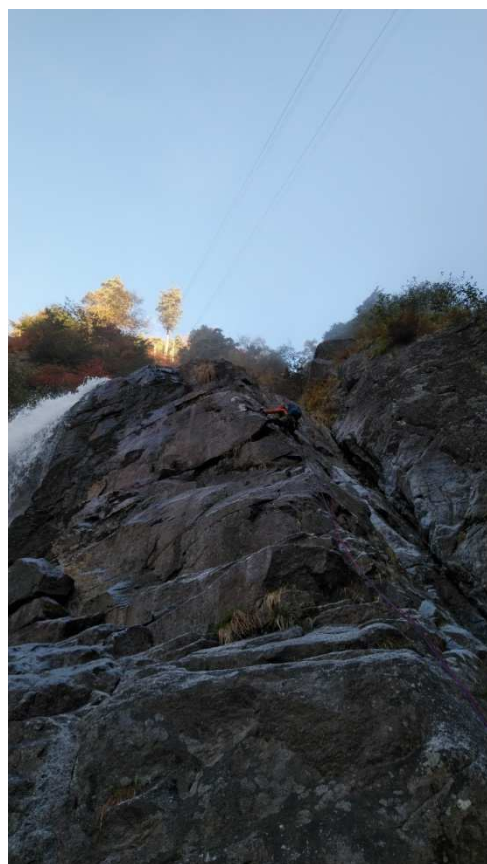
ここからは、教本(N登山大系)にしたがって左岸巻きに入る。下流側に2本の細い沢が滝になって本谷に合流しているが、より下流側の沢の右手リッジに取付いて登り、滝をかわしてから沢を横断して左上し、更に2本目の沢を横断してトラバースする。ここで登り過ぎたようで、本谷に降り立った所は鏡ノ滝の落ち口であった。大高巻きとなったが、ロープは必要なかったため時間的には余裕ができ、ロープウェイ最終には間違いなく間に合うことが確信できたので安堵した。

以後、沢の傾斜はきついが小滝ばかりで、水流を詰めていくと広々とした千畳敷カールの端に辿り着いた。主稜線はガスの中でピークは見え、人の姿もまれであった。駅も閑散としており、帰りのロープウェイでは高巻きルートを顧みながら滝を見物した。

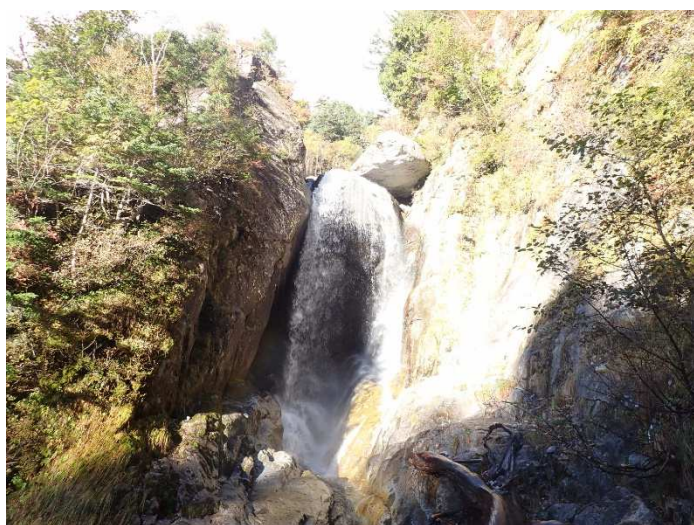
下山がすこぶる楽な沢であったが、今回のように夜から荒天予報の場合は絶対にビバークなどしたくないため、ロープウェイ最終時間は大きなプレッシャーであり、滝登りと高巻きの時間配分がポイントとなるであろう。



日暮らしの滝



日暮らしの滝1段目の登攀



一つ目のチョックストーン滝



快適な滝登りが続く



二つ目のチョックストーン滝



チョックストーン滝頭でビレー



しばらく滝登りが続く



えぐれ方がエグイ



40m 大滝前に降りる



源流は快適な小滝登りが続く



千畳敷に出て終了

